

「ロケット最先端のまち」をPR 「宇宙ウィーク」開催



①古座分庁舎に掲げられた小型ロケット実物大の懸垂幕 ②H3ロケットが写真で飛び出して見えるトリックアート ③H-II Bロケットなどの模型 ④宇宙進出の歴史を掲示した大型グラフィック ⑤小惑星探査機はやぶさと国際宇宙ステーションの模型 ⑥宇宙服のレプリカやオレンジスーツなどの展示

ロケットロゴマーク

町では「ロケット最先端のまち」をPRする素材として、小型ロケットを描いたロゴマークを制作。本州最南端を表し「空と海と大地をつなぐロケット」をイメージしたデザインのもと、単色で橋杭岩を飛ぶロケットを描いたデザインのもの2種類があります。

串本町×宇宙兄弟

宇宙を題材にした人気漫画「宇宙兄弟」の作者・小山宙哉さんに依頼して、串本町とのコラボレーションが実現。橋杭岩を背景に同漫画の主人公2人が並ぶオリジナルポスターが制作されました。

小山さんからは「発射場建設によってたくさんの方の観光客でにぎわうこと、僕も串本町に行くことを楽しみにしています」とメッセージ動画が寄せられました。

また、今回寄贈された単行本全巻3セットのうち2セットは、町の図書館に所蔵する予定です。

射場付近からサーチライト

イベントの一環として、12日と13日の午後6時からロケット射場付近より南東方向にサーチライトが照射されました。

今回、ロケットが打ち上がるおおよその位置とロケットの軌道を示すことで、ロケットが飛ぶ姿をイメージして身近に感じてもらったり、町のどこからロケットが見えるのかを確認してもらうことを目的に照射。両日ともあいにくの曇り空でしたが、橋杭岩や田原海水浴場周辺では、見物する方やカメラマンの姿が多くみられました。



(上)披露されたロゴマーク(左)と小山宙哉さんが描いたイラストのサイン入りポスター
(下)田原の国道42号沿いから見えるサーチライト(12日、長時間露光で撮影)

2月12日から14日までの3日間、串本町役場古座分庁舎でロケット関連イベント「宇宙ウィーク」が開催されました。

このイベントは、田原地区に国内初となる民間の小型ロケット射場「スペースポート紀伊」の建設が進んでいることから「ロケット最先端のまち」をPRするために開催。同分庁舎玄関横にスペースポート紀伊から打ち上げられる小型ロケット実物大(約18m)の懸垂幕が掲げられ、庁舎内には宇宙航空研究開発機構(JAXA)から貸与されたロケットや人工衛星の模型、宇宙服のレプリカなどが展示されました。

「ビジネスデー」として関係者向けに実施された12日、オープニングセレモニーで田嶋町長は「ロケット射場が地域に与える影響はとて大きい。千載一遇のチャンスをつかむため、町ではさまざまな取組をしている」とあいさつし、町が制作したロケットのロゴマークを発表。さらに、漫画「宇宙兄弟」の作者・小山宙哉さんと小山さんの公式ファンクラブ「コヤチュウ部プレミアム」から寄贈されたサイン入りオリジナルポスターと同

漫画の単行本全巻3セットが披露されました。

同日の午後はトークイベントもあり、登壇者のアメリカ人記者ロブ・シユワルツさん、漫画「宇宙兄弟」の編集やグッズ製作に携わる株式会社コルクの小室元気さん(リモートでの参加)、南紀串本観光協会の宇井晋介事務局長、町企画課の濱地弘貴課長が、串本町の今後の展望などを語りました。

来場者の検温や手指消毒、入場者数の制限など新型コロナウイルス対策を講じた上で開催した13、14日の一般公開日には、宇宙関連の展示のほか、南紀串本観光協会のガイドが「スペースポート紀伊」の基本情報やロケット、人工衛星の基礎知識などを説明するワークショップを実施。ロケットのペーパークラブと、串本町と「宇宙兄弟」がコラボレーションした限定ポストカードを配付する来場特典もあり、2日間でおよそ千人の方が訪れました。

三重県から家族と訪れた小学6年の男児は「実物大のロケットの懸垂幕は迫力があつた。ますます本物のロケットが飛ぶところを見たくなつた」と話していました。